

作成日：2009年12月16日

改訂日：2022年 3月28日

## 安全データシート

整理番号：S-801

### 1. 製品名及び会社情報

製品名 : セハー強力くもり止め+除菌  
推奨用途 : くもり止め  
会社名 : 株式会社セハージャパン  
住所 : 〒110-0016 東京都台東区台東1-32-8  
担当部門 : 営業部  
電話 : 03-3839-7531  
ファックス : 03-3839-7532  
緊急連絡先 : 同上

### 2. 危険有害性の要約

#### GHS分類

##### 物理化学的危険性

引火性液体 : 区分3

##### 健康に対する有害性

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 区分2B

生殖毒性 : 区分1A

特定標的臓器毒性(単回ばく露) : 区分3(気道刺激性、麻酔作用)

特定標的臓器毒性(反復ばく露) : 区分1(肝臓)  
区分2(中枢神経系)

上記に記載がない危険有害性は、区分に該当しない又は分類できない

#### GHSラベル要素

絵表示又はシンボル :



注意喚起語 : 危険

危険有害性情報 : 引火性液体及び蒸気

眼刺激

呼吸器への刺激のおそれ

眠気又はめまいのおそれ

生殖能又は胎児への悪影響のおそれ

長期にわたる又は反復ばく露による臓器の障害(肝臓)

長期にわたる又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ(中枢神経系)

#### 注意書き

『安全対策』 : 使用前に取扱説明書を入手すること。  
すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。  
熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。  
容器を密閉しておくこと。  
容器を接地しアースをとること。  
防爆型の電気機器/換気装置/照明機器を使用すること。  
火花を発生させない工具を使用すること。

静電気放電に対する措置を講ずること。

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。

取扱い後は手をよく洗うこと。

この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を使用すること。

『応急措置』 : 皮膚（又は髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水又はシャワーで洗うこと。

眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診察/手当てを受けること。

気分が悪いときは、医師の診察/手当てを受けること。

眼の刺激が続く場合：医師の診察/手当てを受けること。

火災の場合には、消火に泡、散水又は噴霧水、炭酸ガスを使用すること。

『保管（貯蔵）』 : 換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。

施錠して保管すること。

『廃棄』 : 内容物は使い切り、容器を各都道府県の規則に従って、専門の廃棄物処理業者に廃棄を委託すること。

GHS分類に該当しない他の危険有害性 :

なし

### 3. 組成及び成分情報（危険有害性物質を対象）

化学物質・混合物の区別 : 混合物

組成及び成分情報

成分名（別名）	CAS No.	濃度又は濃度範囲 （重量%）	化学式 又は構造式
水	7732-18-5	50~60%	H <sub>2</sub> O
エタノール	64-17-5	30~40%	C <sub>2</sub> H <sub>6</sub> O
ドデカン酸とヘキサグリセリンのモノ エステル	51033-38-6	1.0~10.0%	-
グリセリン	56-81-5	0.1~1.0%	C <sub>3</sub> H <sub>8</sub> O <sub>3</sub>
炭酸ナトリウム	497-19-8	0.1%未満	Na <sub>2</sub> CO <sub>3</sub>
メチルセルロース	9004-67-5	0.1%未満	CH <sub>4</sub> O.xUnspecified
添加剤	非開示	0.1~1.0%	非開示

### 4. 応急措置（以下のいかなる場合も、必ず医師の手当てを受けること）

吸入した場合 : 大量に吸い込んだ場合、被災者を直ちに空気の新鮮な場所に移す。  
暖かく安静にし呼吸しやすい姿勢で休息させる。  
呼吸が不規則か止まっている場合には気道を確保し、人工呼吸又は酸素吸入を行う。  
気分が悪くなった場合、空気の新鮮な場所で安静にし速やかに医師の手当てを受ける。

皮膚に付着した場合 : 付着物を布で素早く拭取る。  
多量の水と石鹼（又は皮膚用の洗剤）を使用して十分に洗い落とす。  
大量に付着したり全身にかかった場合は、直ちに汚染された衣類をすべて脱ぎ、流水又はシャワー等で十分に洗い流す。  
溶剤、シンナーは使用しない。  
外観に変化がみられたり、痛みがある場合には医師の手当てを受ける。

眼に入った場合 : 清浄な水で数分間注意深く洗う。  
次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は、外す。

- その後も洗浄を続けること。瞼及び眼球の隅々まで洗浄する。  
 眼が開けられない場合、無理にあけさせない。  
 出来るだけ速やかに医師の手当てを受ける。
- 飲み込んだ場合：  
 水で口の中を洗い、安静にして、直ちに医師の診断を受ける。  
 自然に嘔吐が起きた場合、気道への吸入が起きないように身体を傾斜させる。  
 嘔吐物は飲み込ませない。  
 被災者に意識がない場合は、口から何も与えてはならない。  
 医師の指示による以外は無理に吐かせない。
- 予想できる急性症状及び遅発性症状のもっとも重要な兆候及び症状：  
 眼刺激  
 呼吸器への刺激のおそれ  
 眠気又はめまいのおそれ  
 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ  
 長期にわたる又は反復ばく露による臓器の障害（肝臓）  
 長期にわたる又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ（中枢神経系）
- 応急処置をする者の保護：  
 換気を行う。  
 救助者は、状況に応じて適切な保護具（有機溶剤用の防毒マスク、ゴム手袋等）を着用する。  
 火気及び着火源に注意する。
- 医師に対する特別な注意事項： 情報なし

## 5. 火災時の措置

- 消火剤：  
 泡（耐アルコール性）、散水又は噴霧水、炭酸ガス
- 使ってはならない消火剤：  
 棒状注水
- 特有の危険有害性：  
 内容液等は極めて燃えやすく、熱、火花、火炎で容易に引火する。  
 火災時に刺激性、毒性及び腐食性のガスを発生するおそれがある。
- 特有の消火方法：  
 適切な消火剤を使用して消火する。  
 危険でなければ火災区域から容器を移動する。  
 消火活動は十分距離をとって、風上から行う。
- 消火を行う者の保護：  
 適切な保護具（耐熱着衣、保護眼鏡等）を着用し、空気呼吸器等を装備する。  
 消火活動は十分距離をとって、風上から行う。

## 6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項／保護具及び緊急時処置：  
 付近の着火源、高温体及び付近の可燃物を素早く取り除き、風下の人を避難させ、関係者以外の立ち入りを禁止する。  
 風上に留まる。低地から離れる。
- 環境に対する注意事項：  
 河川などに排出され、環境へ影響を起ささないように注意する。  
 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。  
 必要であれば、関係省官庁等へ速やかに連絡する。
- 封じ込め及び浄化の方法及び機材：  
 液体吸収材、乾燥砂等の不燃性のものに吸収し、あるいは覆って密閉できる空容器に回収し後で処理をする。  
 衝撃・静電気にて火花が発生しないような材質の用具を用いて回収する。  
 蒸気発生が多い場合は噴霧注水で蒸気発生を抑制する。
- 二次災害の防止策：  
 付近の着火源となるものを速やかに取除くとともに消火剤を準備する。  
 漏出物を取扱うとき用いる全ての設備は接地する。  
 火花が発生しない工具を使用する。  
 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

## 取扱い

- 技術的対策（推奨）： 取扱う場所の近くに、洗眼や身体を洗浄できる設備を設置する。  
静電気対策のため、装置等は接地し、電機機器類は防爆型（安全増型）を使用する。  
作業衣、作業靴等は導電性の物を使用する。  
工具は火花防止型の物を使用する。
- 局所排気・全体換気： 換気のよい場所で取扱う。  
密閉された場所における作業には、十分な局所排気装置を付け、適切な保護具を着けて作業する。
- 安全取扱い注意事項： ばく露防止の為、保護具を着用して作業を行う。  
ミストを吸入しない。  
火炎に投入しない。  
周辺で火気、スパーク、高温物の使用を禁止する－禁煙。  
接触、吸入又は飲み込まないこと。  
容器を開ける際に、漏れ、溢れ、飛散しないように注意する。  
休憩所等に手袋等の汚染保護具を持ち込まない。  
取扱い後は手洗い等を十分に行い、衣服に付着した場合は着替える。  
容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずる等の取扱いをしてはならない。  
混触禁止物質と接触しないように注意する。  
環境へ放出させないこと。
- 接触回避： 「10. 安定性及び反応性」を参照。
- 衛生対策： 取扱い後はよく手を洗う。  
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙しない。

## 保管

- 技術的対策： 静電気放電に対する予防措置を講ずる。
- 接触禁止物質： 「10. 安定性及び反応性」を参照。
- 保管条件： 幼児の手の届かない所に置く。  
直射日光を避け、通風の良い所に保管。  
熱、火花、裸火のような着火源から離して保管する－禁煙。  
高温になる所を避けること。  
容器を密閉し、保管すること。  
混触禁止物質と接触並びに同一場所での保管を避ける。  
保管場所で使用する電気器具は防爆構造とし、器具類は接地する。  
その他、消防法、労働安全衛生法等の法令に定めることに従う。

## 8. ばく露防止及び保護措置

## 許容濃度

成分名	管理濃度（安衛法）	許容濃度		
		日本産業衛生学会	ACGIH(TLV-TWA)	ACGIH(TLV-STEL)
エタノール	設定されていない	設定されていない	設定されていない	1,000ppm

※安全衛生センター、NITE CHRIP記載データ等に基づく。

※許容濃度が設定されていないものは省略している。

## 設備対策

- ： 排気装置を付けて、蒸気が滞留しないようにする。  
取扱い設備は防爆型を使用する。  
取扱い場所の近くには、洗眼及び身体洗浄のための設備、機器または局所排気装置を使用し、高温、発火源となるものが置かれないような設備とする。  
屋内作業の場合は、作業者が直接ばく露されない設備とするか、局所排気装置等により作業者がばく露から避けられるような設備とする。  
タンク内部等の密閉場所で作業する場合には、密閉場所の底部まで十分に換気できる装置

	を取り付ける。
保護具	: 必要に応じて着用する。下記保護具は推奨であり、選定には保護具メーカーや専門家等の意見を聞いて実施する。
呼吸器用保護具	: 空気呼吸器、酸素呼吸器、送気マスク等
手の保護具	: 保護手袋（不浸透性、耐薬品性等）
眼の保護具	: 保護眼鏡（ゴーグル型、側板付等）、保護面等
皮膚及び身体の保護具	: 保護衣（長袖、不浸透性、導電性）、導電性の靴、前掛け等（耐溶剤性）等
適切な衛生対策	: 保護具は清潔で有効なものを使用する。 取扱い後はよく手を洗うこと。 作業中は飲食、喫煙をしない。

---

## 9. 物理的及び化学的性質

物理状態	: 液体
色	: 無色（透明）
臭い	: エタノール臭（特有の芳香）
融点・凝固点	: -114.5℃（エタノールより）
沸点、初留点及び沸騰範囲	: 78.3℃（エタノールより）
可燃性	: 可燃
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界	: 3.3～19.0vol%（エタノールより）
引火点	: 25.6℃（36wt%水）（推定値）
自然発火点	: 439℃（エタノールより）
分解温度	: データなし
pH	: データなし
動粘性率	: データなし
n-オクタノール／水分配係数	: -0.3（logP）（エタノールより）
蒸気圧	: 5.878kPa（20℃）（エタノールより）
密度及び／又は相対密度	: 0.948（20℃）（エタノールより）
相対ガス密度	: データなし
粒子特性	: データなし

---

## 10. 安定性及び反応性

反応性	: 通常の使用において安定している。
化学的安定性	: 通常の使用において安定している。
危険有害反応可能性	: 通常の使用において安定している。
避けるべき条件	: 高温、直射日光、衝突、混触危険物質、静電気、火気
混触危険物質	: データなし
危険有害な分解生成物	: 燃焼等により有害なガス（一酸化炭素、二酸化炭素等）を発生する。
その他の有害性情報	: 蒸気は引火して爆発する恐れがある。

---

## 11. 有害性情報

急性毒性（経口）	: データ不足のため分類できない
急性毒性（経皮）	: データ不足のため分類できない
急性毒性（吸入：ガス）	: 区分に該当しない。
急性毒性（吸入：蒸気）	: データ不足のため分類できない
急性毒性（吸入：粉塵、ミスト）	: データ不足のため分類できない
皮膚腐食性／皮膚刺激性	: データ不足のため分類できない
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	: 区分2Bの成分合計が、濃度限界（10%）以上のため、区分2Bに該当。
呼吸器感作性	: データ不足のため分類できない
皮膚感作性	: データ不足のため分類できない

		分類に寄与しない成分を含む。
生殖細胞変異原性	:	データ不足のため分類できない
発がん性	:	IARCでは「アルコール性飲料としてヒトに発がん性がある」としてグループ1に分類しているが、これは、アルコール性飲料を習慣的に摂取するヒトの多数の疫学調査に基づき、アルコール性飲料と食道系及び肝臓がんの因果関係を認めたものである。
生殖毒性	:	区分1Aの成分が0.3%以上のため、区分1Aに該当。
	授乳に対する又は授乳を介した影響の区分 :	データ不足のため分類できない。
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	:	区分3（気道刺激性、麻酔作用）の成分合計が、濃度限界（20%）以上のため、区分3（気道刺激性、麻酔作用）に該当する。
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	:	区分1（肝臓）区分2（中枢神経系）の成分が10%以上のため、区分1（肝臓）、区分2（中枢神経系）に該当。
誤えん有害性	:	データ不足のため分類できない

---

## 12. 環境影響情報

生態毒性		
	エタノール	: 魚類（ニジマス）の96時間LC50=11200ppm 甲殻類（オオミジンコ）の48時間EC50=5463mg/L 藻類（クロレラ）の96時間EC50=1000mg/L
残留性・分解性		
	エタノール	: 良分解性
生体蓄積性		
	エタノール	: log Pow=-0.3
	メチルシクロヘキサン	: 低濃縮性
土壌中の移動性		: データなし
オゾン層への有害性		: モントリオール議定書に規制されている物質を含まない。
その他		: 現在のところ有用な情報は無いが、漏洩、廃棄等の際は環境に影響を与える恐れがあるので注意する。

---

## 13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	:	関連法規制並びに地方自治体等の基準に従って適切な処分を行う。 許可を受けた産業廃棄物処理業者と受託契約をして処理する。
汚染容器・包装	:	関連法規制並びに地方自治体等の基準に従って適切な処分を行う。 内容液を除去した後に廃棄処理をする。 許可を受けた産業廃棄物処理業者と受託契約をして処理する。

---

## 14. 輸送上の注意

国連番号	:	1993
品名（国連輸送名）	:	その他の引火性液体
国連分類	:	クラス3（引火性液体）
容器等級	:	III
海洋汚染物質	:	非該当
MARPOL73/78附属書II及びIBCコードによるばら積み輸送される液体物	:	非該当
国内規制がある場合の規制情報		
陸上輸送	:	消防法、道路法等の輸送について定めるところに従う。
海上輸送	:	船舶安全法に定めるところに従う。
航空輸送	:	航空法に定めるところに従う。
緊急時応急措置指針番号	:	127

---

### 15. 適用法令

化学物質排出把握管理促進法	：	非該当
労働安全衛生法	：	危険物・引火性の物 名称等を表示すべき危険物及び有害物（エタノール） 名称等を通知すべき危険物及び有害物（エタノール）
毒物及び劇物取締法	：	非該当
化学物質審査規制法	：	特定化学物質、監視化学物質、優先評価化学物質に該当しない。
船舶安全法	：	引火性液体類
航空法	：	引火性液体
消防法	：	非危険物

---

### 16. その他の情報

参考文献	：	原料SDS NITE 化学物質総合情報提供システム NIHS 国際化学物質安全性カード 環境省 Chemi coco 労働安全衛生法対象物質全データ JIS Z7252:2019 JIS Z7253:2019 Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals (GHS) UN ST/SG/AC.10/30/Rev.8
------	---	--

記載内容の取扱い：このSDSは、JIS Z 7253（2019）に準拠して作成しています。  
記載された内容は、入手できた情報やメーカー所有の知見によるものですが、記載のデータや危険、有害性の評価に関してはいかなる保証をなすものではありません。又、法令の改正及び新しい知見に基づいて改訂されることがあります。  
記載された注意事項は通常の取扱いを対象としたものですので、特殊な取扱いの場合には、ご使用者の責任において、用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご利用ください。  
すべての化学物質には未知の危険性、有害性が存在するという認識で、開封から保管、廃棄に至るまで、細心の注意を払ってご使用ください。  
本品の適正に関する決定は、使用者の責任において行ってください。